

# 声優 石川さん、俳優 齊藤さんに聞く

六月三日公開のアニメ映画「とんがり頭のごん太 2つの名前を生きた福島被災犬の物語」は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による避難で離れ離れになった浪江町の被災犬と飼い主の絆、

動物保護ボランティアの無償の愛を描く。主人公の声を担当する声優石川由依さんと、飼い主を演じる俳優齊藤暁さん（郡山市出身）が福島民報社の取材に答え、映画に懸ける思いを語った。

と富田さんの架け橋的な存在になりたい、という思いで声を吹き込む」

「震災から十一年がたつ中で公開される。」

「長いようであっという間の十一年だった。月日を重ねるごとに震災の記憶が薄れていく人も多いと思う。浪江町でどんなことが起こっていたのか、動物保護団体がどんな活動をしてきたのか。まずは震災の事実を見てほしい。災害はいつ誰が体験してもおかしくない」と再認識する機会になればうれしい。そして由紀のような活動をしたい、という人が増えてほしい」

## 等身大の気持ちで

―出演が決まった時の心境は。

「震災がテーマの作品だと聞いて『軽い気持ちでは受けられない』と感じた。自分が思い描く物語と震災が生んだ繊細な部分にスレが生じないよう、オーディション前に台本などをもらって勉強した」

―主人公・吉野由紀は動物保護ボランティア団体に所属し被災犬を第一に考え

「この作品を通して初めて、動物保護のボランティア団体があることを知った。その他にも震災について知らないことがたくさんあると気付いた。知らないことを学び、由紀と一緒に成長していこうという等身大の気持ちで臨んだ。自然体で身構えず、物語に寄り添う姿勢を大事にしたい」

―由紀は大学に通いながら活動している。人物像をどう見るか。

「由紀とは年代や出身地など共通する部分が多く、ある種の運命を感じた。迷いながらも被災犬のために行動する姿に刺激を受けた。今後震災などが起きた

「中、飼い主の富田一家は泣く泣くごん太と別れる。富田一家に寄り添う姿勢をどう表現するか。」

「由紀は常に『ごん太のために』『富田さんのために』という強い思いで行動している。両者の絆を大事にしたいのだろう。ごん太



映画に懸ける思いを語る石川さん

## 飼い主の声担当 齊藤暁さん(郡山出身)

### 「内側」に少し近づけた



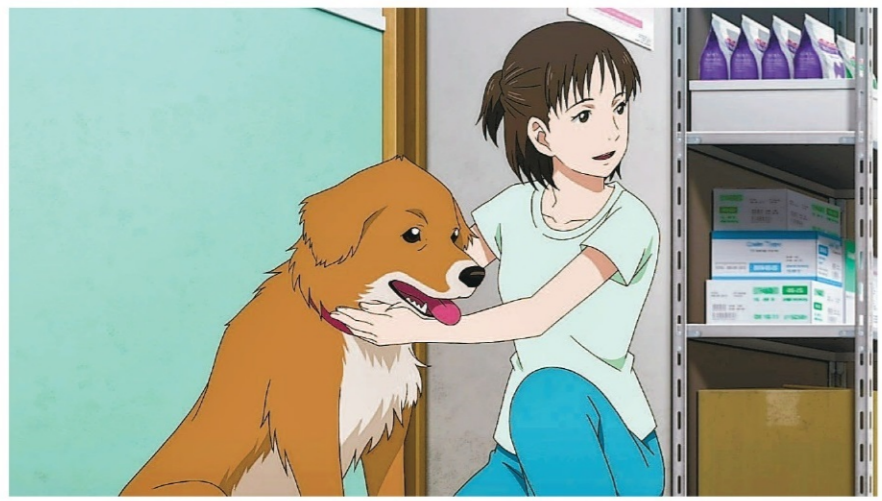
映画の一場面。清は震災前、定食屋を営んでいた

―作品を通して伝えたい思いを聞かせてほしい。

「震災や原発事故の実情を伝える、歴史的な記録になると思っている。老若男女問わず、一人でも多くの人に覚えてほしい。そして震災や原発事故を見つめ直すと同時に、今起きているあらゆる社会問題を考える契機になればうれしい」

◇ ◇

映画はノンフィクション「とんがりあたまのごん太」(仲本剛著、光文社)を原作にしている。ウォ・コーポレーションの製作、福島民報社、光文社の協力。福島市のフォーラム福島や東京都のヒューマン・トラスト・シネマ渋谷で上映する予定。



映画の一場面。ごん太に優しく寄り添う由紀



齊藤 暁さん

―古里・福島県を舞台にした作品で重要な役を担う。

「震災後、都内には本県からの避難者であふれていた。何かできることはないかと自転車避難所に向かったが、疲れ切った顔の人々に何も声をかけることができず無力さを痛感した。あれから十一年、この作品に携わることで当事者たちの「内側」に少し近づけたようであれなかった」

―ごん太と別れた富田清の悲しみをどう表現するか。

「ごん太との掛け合いで留意した点は。」

「清はごん太に唯一、本音を話していると感じている。両者の間に、家族とは違った絆があったからだと思う。そんな清とごん太との絆を大切にしたい」